

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3471503981		
法人名	有限会社 楓		
事業所名	グループホーム楓		
所在地 (電話番号)	福山市加茂町下賀茂1251-7 (電 話) 084-972-5050		
評価機関名	広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成21年11月18日	評価確定日	平成22年1月7日

【情報提供票より】(H21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 11 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 13.2 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設／○単独	○新築／改築
建物構造	軽量鉄骨造り	
	2 階建ての	1 階 ～ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,100 円	

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	よしたかクリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム楓(以下「ホーム」)は、福山市の中心部から北に約10kmの中国山地の山裾の、閑静な住宅街に位置しています。近くには、中学校や総合病院、大型スーパーがあり、生活に便利な環境にあります。ホームでは「お客様、ご家族様、そして地域の皆様との子々孫々のお付き合いを大切にします」というホーム独自の理念のもと、管理者、職員、地域が協力しあいながら、利用者のその人らしい暮らしを支援されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目①	前回の評価では、評価の意義の理解と活用が課題となっていました。ミーティングで報告され、改善課題に対する具体的な検討が行なわれ、サービスの質向上に努められています。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で話し合い、自己評価が共通の考え方となるよう積極的に取り組まれています。評価は、やらなければならない義務感ではなく、もっとよくしていきたい、という思いで前向きに検討されるなど、サービスの質向上に努められています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、民生委員、町内会役員、利用者代表、管理者、地域包括支援センター職員、家族代表、職員などが参加し、2か月に1回開催されています。会議では、ホームの活動報告をされたり、家族や地域住民からの意見・要望についての話し合いを行い、改善に向けた具体的な取り組みにつなげられています。また、町内会役員からの情報や意見が地域行事への参加につながっています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関に意見箱を設置するとともに、利用者、家族に、日頃から声かけをすることで、意見を言いやすい雰囲気をつくられています。意見があれば、運営推進会議の中で報告するなど、運営に活かされるよう取り組まれています。さらに、職員の異動時は、毎月のホームだより「楓だより」に職員の紹介や利用者の様子などを報告し、利用者、家族の安心が得られるよう配慮されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運動会、文化祭、地域の溝掃除、神輿などの行事に参加されています。また、年1回の楓祭りでは、ウッドデッキで職員が行う楓一座公演や、駐車場での露店、招待チケットの配布など、職員が一丸となって祭りを盛り上げています。さらに、散歩、買い物などの機会に、挨拶を交わして地域の人と顔なじみになるなど、地域住民との交流に取り組まれています。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでは「私たち楓は、お客様とご家族様そして地域の皆様との子々孫々のお付き合いを大切にします。」という理念を掲げられています。理念をもとに職員一人ひとりが、やりたい事、レベルアップを図りたい事を「私の方針」として具体化し、利用者のその人らしい暮らしを支えるための取り組みが行われています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関やホールなどの各所にさりげなく掲示されており、管理者と職員は日々の暮らしの中で常にこれらを意識されています。また、ミーティングや申し送り、振り返りの時にも、理念に必ず触れられています。理念が実際の介護の場面や日々の生活に活かされるよう取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運動会、文化祭、地域の溝掃除、神輿、とんど祭りに利用者と一緒に参加されています。また、年1回の楓祭りでは、ウッドデッキで職員が行う楓一座公演や、駐車場では露店が開かれます。地域からは町内会玉すだれチームが参加し、交流を深めておられます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組みを振り返り、自己評価を行うことで、改善課題を明らかにし、ホームの運営に役立てられています。また、改善策についてミーティングでの検討、家族や運営推進会議での報告など、「ホームをもっとよくしていきたい」という思いで前向きな検討を行い、サービスの改善に努めておられます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員、町内会役員、利用者代表、管理者、地域包括支援センター職員、家族代表、職員などが参加し、2か月に1回開催されています。会議では、ホームの活動報告をしたり、家族や地域住民からの意見・要望についての話し合い、改善に向けた具体的な取り組みにつなげられています。また、町内会役員からの情報や意見が地域行事への参加につながっています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	タウンソーシャルワーク連絡会に参加し、行政との連携に努められています。また、制度の運用、解決について適切なアドバイスをいただき、連携を図るとともに、情報交換を積極的に行われています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員自筆の手紙を通して、ホームでの暮らしぶりやエピソードなどを報告されています。また、月1回発行される「かえでだより」には、写真を掲載し、ホームでの生活や行事の際の表情が家族に伝わるよう工夫されたり、職員の異動についても、「かえでだより」に写真を用いて報告するなど、利用者や家族の安心感が得られるよう配慮されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するとともに、利用者、家族に常に声かけを行い、意見を出しやすい雰囲気をつくられています。また、管理者は利用者一人ひとりの心身の状況について、この先予測されることを、家族等が知りたいことを考慮しながら、丁寧に報告を行うなどして、信頼関係づくりに努められています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が利用者に与える影響について理解するとともに、できる限りなじみの職員がサービスを提供できるように、普段からユニット間の交流や情報交換を行うことで、なじみの関係を築かれています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて開催される内部研修のほか、新人、中堅、ベテラン等の研修を計画・実施され、職員が目標をもってサービスの質向上に取り組めるよう、積極的な働きかけを行なわれています。また、外部研修は、職員の希望にあわせて参加できます。研修終了後には、ミーティング等を活用して、研修内容の伝達、共有に取り組まれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会を兼ねて他ホームを相互訪問する機会が設け、「いいとこ、5つみつけてこよう」を目標に同業者との交流を図られています。また、タウンソーシャル連絡会や管理者・ケアマネ連絡会に参加し、同業者との交流、ネットワークづくりや勉強会、情報交換の機会をもっています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に見学や体験入居の機会を設けるなど、利用者、家族が納得されてから、サービスを開始されています。また、体験コースを提案するなど、利用者一人ひとりの状況に合わせた支援を行えるよう工夫されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験を活かして支援する側、支援される側という意識をもたず、利用者の得意分野で力を発揮し、「できること」で利用者がいきいきとした生活が送れるよう取り組まれています。また、職員は、人生の先輩として利用者から学ぶ姿勢をもたれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどのような暮らしを望んでいるのか、一人ひとりの思いや希望を個別の対応につなげられています。その人の生活のリズムに合わせて早朝からの朝食、夜遅くの入浴など、利用者一人ひとりの思いや希望がサービスに具体的に反映できるように利用者本位の暮らしを支援するための検討が行われています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日々の暮らしぶりを詳細に記録するとともに、支援上の留意点を共有する「ここだけはシート」を活用して支援が行われています。利用者の状況の変化や家族の要望を把握しながら、一人ひとりの目標を定め、日々の記録をもとに個別の具体的な計画になるよう検討が行われています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回、アセスメントシートをもとにカンファレンスを行い、計画の定期的な見直しを行うとともに、ケアへの共通認識と方向性を確認されています。また、利用者の状況の変化に応じて職員全員でカンファレンスを行い、常に利用者の現状に即した計画となるよう努められています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員は、利用者の今までの生活を続けられるよう、家族と同じような関わり合いを実践されています。ホームで葬儀を行った際も利用者、職員全員でお別れするなど、日常生活の延長としての関わり、その人らしく生きることを支えるよう努めておられます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望する医療機関での受診を支援されています。また、協力医療機関との連携が綿密に行われており、必要に応じて訪問診療が受けられるように体制を整えるなど、利用者、家族が安心できるよう支援されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が疑われる初期段階で、本人・家族・医師との話し合いの場をもち、重度化した場合の方針を定められています。重度化した場合は、関係者全員が方針を共有するとともに、利用者や家族の意向を反映しながら、その人らしく生きるための支援に取り組まれています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の暮らしの中で、利用者一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切にされており、トイレ誘導の際には、利用者同士の関係に配慮してさりげない声かけが行われています。また、不適切な言葉かけや対応をしないよう、ミーティングなどで意識の徹底に取り組まれています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの「したいこと」をできるかぎり、暮らしに取り入れられるよう支援されています。また、利用者のペースにあわせた声かけをしながら、一人ひとりの「その日」の思いを尊重した支援を行なわれています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が1週間ごとに持ち回りで献立をたてられています。担当者は栄養バランスや利用者の嗜好に配慮し、四季折々の食材を使いながら食事を提供されています。また、調理、盛り付け、卓上IHコンロで煮物の味付けを利用者と一緒にされたり、食事の時間が利用者の楽しみごとへつなげるよう支援されています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝風呂や夜間入浴など、利用者のこれまでの生活習慣や希望に合わせて入浴できる環境をつくることで、くつろいだ気分で入浴できるよう支援されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者、家族の声に耳を傾け、一人ひとりの「できること」をいかした役割づくりを工夫されています。利用者の持っている力や体が覚えている記憶などを、生活の中で発揮できるよう工夫されています。また、職員がお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えることで、利用者が生活の中で楽しみごとや、役割を実感し、活動意欲をもてるよう配慮されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が部屋に閉じこもることのないよう、健康状態や希望に配慮しながら、日常的に買い物や散歩など、積極的に外出の機会を設けられています。高齢化や要介護度の進行など、利用者の状況に応じて職員が移動の配慮をしながら、外出支援を支援されています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に部屋の鍵はかけられていません。利用者一人ひとりのさりげない見守りを行いながら、利用者の安全に配慮されています。また、センサーの利用などによって、安全に配慮しながら、鍵をかけないケアに取り組まれています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自で災害対策に関するマニュアルを整備しており、年2回、消防署の指導のもと、さまざまな状況を想定した火災避難訓練が行なわれています。また、地域の中学校で行われる広域的な訓練に参加されています。	○	今後は、人手が手薄になる夜間の災害などを想定し、職員間で話し合いの機会を持ち、職員のみで行う誘導の限界を具体的に確認し、地域住民や警察署、消防署などとの連携を図りながら、ホームの災害対策に対する理解を求め、協力体制をつくられることを期待します。また、災害に備えた備品などを準備されることを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は個別に記録され、1日1,000ccを目安として「食事・水分摂取一覧表」に記入しながら、一人ひとりの水分摂取量と排泄状況を把握し利用者の健康管理を図られています。また、利用者の好みを取り入れた5種類の飲み物を利用者の意思で選ぶことができるなど、1日を通して必要な水分や栄養が確保できるよう取り組まれています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの玄関やリビングには、季節を感じられる花が活けられるなど、居心地のよい雰囲気となっています。また、居間には掘りごたつが設けられ、窓際から見える景色は居心地よく過ごせるよう配慮されています。また、トイレとリビングの温度差をなくすために、少しドアを開けて温度差や換気にも配慮し、安心してくつろげるような工夫があります。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が自宅で使用していたなじみの家具、鏡台、時計、ベッド、仏壇などが持ち込まれています。壁には家族の写真も飾るなど、利用者が安心して、居心地よく過ごせる環境づくりを行なわれています。状況に応じて、家族が利用者の部屋で宿泊されることもあります。		

(別紙 2 - 1)

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 楓 いちご

評価年月日 2009 年 11 月 1 日

記入年月日 2009 年 11 月 1 日

記入者 管理者 木村 陽子 他 介護スタッフ

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

目 次

I 理念に基づく運営	1	IV その人らしい暮らしを続けるための 日々の支援	9
1 理念の共有	1	1 その人らしい暮らしの支援	9
2 地域との支えあい	1	(1) 一人ひとりの尊重	9
3 理念を実践するための制度の理解と活用	2	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	10
4 理念を実践するための体制	2	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	11
5 人材の育成と支援	4	(4) 安心と安全を支える支援	12
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	4	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	13
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	14
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	5	(1) 居心地のよい環境づくり	14
III その人らしい暮らしを続けるための ケアマネジメント	6	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	15
1 一人ひとりの把握	6	V サービスの成果に関する項目	16
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	7		
3 多機能性を活かした柔軟な支援	7		
4 本人がより暮らし続けるための地域資源との協働	7		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念は各ユニットに掲げ、スタッフ一同常に心がけています。	○	いつも会社の理念「子々孫々のお付き合い」を念頭において行動します。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティング等で、理念に基づいて話し合いをしています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	楓だよりやお手紙で日々の暮らしをお伝えしています。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時には近所の方から声を掛けて頂くこともあり、挨拶や立ち話をしたりします。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	溝掃除には必ず参加し、地域の行事には入居者様と一緒に参加させて頂いています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域への関わり方など、月一回のミーティングなどで話し合いをしています。	○	地域のお役に立て、あてにされるホームになれるよう努力します。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	スタッフ全員で話し合い、指摘事項の改善に取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族や地域の方々の提案は、ミーティングや申し送り時に共有化し改善しています。	○	会議の内容をホームの暮らしに活かしていきます。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	常に介護保険課をはじめ行政と相談し、サービス向上に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	制度情報を集め資料をスタッフ全員で回覧しています。必要に応じ、ご家族の方に説明させて頂いています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待に対する研修を行い、スタッフ全員が分かるようにレポートを作成し回覧しています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を实践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際にはスタッフも同席し、入居される中で不安なことがないように十分説明させて頂いています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者様より、意見・不満をお聞きしたら、直ちにスタッフ同士で話し合い改善しています。	○	今後も利用者様のご意見に耳をかたむけ、改善につなげていきます。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一回、自筆のお手紙で日常生活を報告しています。健康状態については、異常があればすぐご家族へ連絡できるようにしています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	「何か気になることがあれば言って下さいね」と日ごろからお伝えしています。	○	頂いたご意見を日頃の運営に生かしていきます。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回、ミーティングを開きスタッフが意見を言える場を作っています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況の変化によってシフト時間・人員の調整をしています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	普段からユニット間の交流や情報交換を行い、利用者さんのダメージを防ぐようにしています。		
----	---	---	--	--

5 人材の育成と支援

19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の案内を申し送りなどで案内し、参加したいスタッフをその都度、募っています。	○	新しいスタッフにも色々な研修に参加するように、声かけをしています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他の施設の見学へ行かせて頂き、職場との相違点をみつけることで、よりよいサービスの実施につなげています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	月に一回の全体ミーティングで困ったことがないか聞くようにしています。		全体で言いにくい事などは各リーダーに相談するように日頃から声かけをしています。これからも、スタッフ一人一人への目配り、気配りに一層努めます。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	スタッフそれぞれの得意な分野を任せ、個々の自信となるようにしています。		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	何度も事前に面接を行い不安な事や求めておられる事を聞き、受けとめるように努めています。		不安に思われている事はこちらからも問いかけるようにし、安心して利用できるように努力しています。
----	--	---	--	---

番 号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこ と、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力 をしている。	来所された時やお電話した時などに、困っている事や悩 みがないかお聞きするようにしています。すぐにお答え するのが難しい内容に関しては、ホーム内で検討後、出 来る限り早急にお答えしています。	○	キーパーソンからだけでなく、ご家族様みなさまそ れぞれの思いを十分に聞き取れるようにします。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としてい る支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様に最も適したサービスを見極めるべく他のサービ スも視野に入れ、ケアマネージャーと相談し柔軟な対応 をしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サー ビスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰 囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご利用前に見学や体験入居もしていただいています。ま た、ご入居にあたっては、使い慣れたものや、なじみの ある家具などを持ってきて頂くようお願いしています。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ご しながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築 いている	歌と一緒に歌い、「痛い」と言われている方とはゆっくり お話をし、共にその気持ちを受けとめていくようにして います。	○	入居者様と料理や洗濯などの仕事を一緒にこなす ことで、共に過ごす時間をさらに増やしていきたい です。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共 にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の状態の変化に合わせ、ご家族もまじえ支援の 方法を話し合います。 可能な限り協力して頂いています。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が 築いていけるように支援している。	催し物にご家族を招待し、スタッフ・入居者様・ご家族 が一緒に楽しめる場を作っています。また、ご家族には 月に一度の『お手紙』にて個々のご様子をお知らせして います。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	「～さん元気ですかね」など会話の中になじみの方の名前をとり入れながらお話をしています。	○	なじみの方に会う機会を増やしていきたいです。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お一人で座っている方にはお声をかけて他の方々と歌を唄ったり、散歩をしようと声かけをしています。		皆で何かをする場を一日に一回は作るようにしています。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	「いつでも来て下さい」とお声をかけたり、年に一度のおまつりの案内を出すようにしています。	○	もっと色々な行事にもお声をかけていき、サービスの利用が終了してからも家族でありたいと思います。

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	好きな時に起き、好きな時に食べる当たり前の生活が出来るように、お一人ずつのパターンに合わせた支援に努めています。		カンファレンスを開き、話し合いをし、又ご家族とも相談してご本人様の意向に添えるよう努めています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様・ご家族より事前に情報収集をしています。日々の生活で悩んだ事などはその都度ご家族へ確認しています。		ケアマネージャーより今までの情報を聞き、その情報はスタッフ全員が把握しています。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	アセスメント・毎日の記録・スタッフ同士の情報交換などで把握しています。		暮らしに変化があった時はすぐにカンファレンスを開き、必要に応じてご家族に連絡しています。又、その事を記録に残し把握出来るようにしています。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	計画作成時、ご家族・ご本人様の思いをスタッフで十分に話し合い「その人らしい生活」ができるように心がけています。		三ヶ月に一度、カンファレンスを開きアセスメントシートなどを元に、見直しをしています。
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアマネージャー・スタッフで六ヶ月に一回の見直しのカンファレンスを開き、現状に合った計画を作成しています。		期間にこだわらず変化があった場合は速やかにカンファレンスを開き、プランの変更をしています。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は介護記録に記入し、記録を元に一日の申し送りをして、気づきや体調の変化を全員が把握し情報を共有しています。		介護記録の他にスタッフ間の連絡ノートを作り、ケアの工夫や気づきなどの話し合い・見直しに活かしています。

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所の多機能性を最大限に活かし、ご家族と相談のうえ出来る限りお一人ずつの要望に柔軟にお答えしています。		
----	--	--	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアさんによる歌や踊り、消防からの避難訓練指導等を協力して頂いています。		地元の中学生の職場体験を受け入れたりしながら協力・支援をしています。
----	---	--	--	------------------------------------

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	ご本人の気持ちを大切に、他の機関と連絡を取り合い ご本人の一番良い支援に努めています。		他のケアマネージャーやサービス等を必要に応じ 利用しています。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的な ケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働して いる。	地域包括支援センターと連携し対応しています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ 医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支 援している。	本人及び家族の希望の元、かかりつけ医を選び適切な医 療を受けられるよう支援しています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談 したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支 援している。	受信・往診時に気になっていることや変わったことなど があれば相談しています。	○	医師との情報交換をこれからも積極的にしてい きたいです。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談 しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤の看護職員がおり、日常の体調の変化・健康管理等 を常に相談しながらケアに取り組んでいます。 近隣の医療機関にも相談をしています。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、でき るだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された時はお見舞いに行かせて頂き、病院関係者さ んと情報交換しています。その内容は、すべてのスタッ ドで情報を共有しています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	普段の生活の中で本人様や家族から御希望をお聞きし、入院時や重度化の際には再度話し合いを持つようにしています。		かかりつけの医師にも家族の意向を伝えるようにしています。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	スタッフ全員でミーティングをおこない、自分達には何が出来るのか・どんな暮らしを提供したら良いのかなどを話し合い方針を決めています。	○	自分達に出来る精一杯の事をしてさしあげるよう十分な話し合いをしていきたいです。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	情報提供書や新しい施設のスタッフの方との直接の面談で、生活面を中心にお伝えしています。		本人にとって一番いい生活が出来るよう情報には注意を払うようにしています。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉かけは親しみの中にも敬意をもって行っています。	○	個人情報の取り扱いについて十分注意していきます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	トイレやお風呂・睡眠など、スタッフのペースにならないよう、利用者様の思いに合わせて行動しています。また、言葉の表現が難しい方にはこまめに声かけをするように心がけています。	○	おしつけの声かけにならないよう「本人の思いが一番」と心に留めながら声をかけるようにしています。今後も、同様に心掛けます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の勤務者の数で決めるのではなく、入居者様の思いを聞きどのようにしたら叶えられるか考え行動するようにしています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	いつも同じ髪型ではなく、美容師と相談して入居者様に決めて頂き、納得される髪型になるようにしています。	○	伝える事が難しい方の時などはスタッフがフォローに入り、ご本人様の思いを変わりに伝えていくようにしています。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節に合わせて野菜等を炊くようにしています。炊く時には入居者様に作って頂き、スタッフが安全に注意しながらお手伝いをしています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好きなおやつと一緒に買いに行き、楽しみとなる場を設けています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄を心がけて、おひとりずつに合わせた対応をしています。	○	排泄の支援の方法や手順をスタッフが共有し、本人様が混乱しないようにしています。これからも、気持ちよい排泄ができるよう支援します。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日ごとに誰がいつ入るのか基本的には決めているが、状況に応じて入って頂くようにしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	眠りたい時にお部屋に帰って眠って頂いたり、リビングのソファにて休んで頂いたりしています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	モップがけ・皮むき・味付けなど工程によって、得意な方にして頂いています。		どの分野が得意か見極めて、スタッフ同士意見を交換しながら声かけをしています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自分のお財布を家から持ってきて頂き、出来るだけご自分で払っていただくようにしています。		お金を所持する機会を増やしていく工夫をしています。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	お散歩やドライブに積極的にお連れしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	毎月一回は行事として出かける機会を作っています。	○	おひとりずつのご要望に沿い、個別のお出かけの機会を増やします。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご要望に沿い、支援を行っています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	24時間いつでも来て頂けることを入居時に説明をし、スタッフもあたたかいおもてなしをするよう心がけています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	常に身体拘束になっていないか、申し送りやミーティングで確認しあっています。	○	引き続き、身体拘束を行わないケアを行っていきます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は日中ドアを開けて過ごしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者様18名の方がどこで何をされているか、全スタッフが把握するよう心がけています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	安全なものに代用したり、見える位置にあえて置くことでスタッフ自信も把握していくようにしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	「ヒヤリはっ」とに記入し、情報を共有化し防止していくようにしています。	○	一般的な注意・対応だけでなく、入居者様一人ずつに発生しうる事故について、未然に防ぐ工夫をしていきます。
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期に行っている。	入社時に社内研修を行っています。 消防訓練も定期的に行っています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	訓練は受けているが突然起きた時に的確に動けるかどうか不明です。 地域との連携がもっと必要だと思います。	○	地域との連携を進めていきます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	予想されるリスクを事前にご家族と話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	申し送りノートや介護記録を通じて把握していき、早期にご家族への受診の相談を行っています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬の情報を理解し、副作用などを調べて知っておくようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	牛乳・ヤクルトなどの乳製品を飲むようにし、何日目でどのような対応をするのか表にして管理しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝しかされない方や毎食後される方など、頻度はさまざまですがご本人にあわせて負担にならないように声かけをしています。	○	お一人ずつの「できること」の変化に応じ、これからも一人ずつに合わせたケアをしていきます。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量は個人記録につけるとともに、食べ物なども好みや量を工夫し作るようにしています。	○	低栄養にならないよう、献立の内容に工夫していきます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	マニュアルに基づき、実行しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	アルコール消毒などで除菌し、魚と肉のまな板を区別することで食中毒を防止しています。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関のアプローチにはお花を植えており玄関のドアはいつもオープンにしており親しみやすくしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関やリビングには絶えずお花があり、トイレなども少しドアを開けていて分かりやすくしています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや畳の和室があり、入居者様同士がお話をする場になっています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	皆さん使い慣れたタンスや服を持って来られており、一人ひとりの居室にそれぞれの個性が現われています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気などは毎日こまめに窓をあけ、気を配っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビング内には手すりがあり、段差もないので、車イスの方でも自由に動くことができます。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	それぞれの居室の入口には名前を書いたプレートを下げ、トイレにはイラスト入りの札をつけています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ウッドデッキでティータイムを楽しんだり、庭で花や野菜を育てたりしています。	○	入居者様と共に出来る活動を増やし、ウッドデッキや庭を活用していきます。

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、活き活きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目

(別紙 2 - 1)

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 楓 りんご

評価年月日 2009 年 11 月 1 日

記入年月日 2009 年 11 月 1 日

記入者 管理者 木村 陽子 他 介護スタッフ

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

目 次

I 理念に基づく運営	1	IV その人らしい暮らしを続けるための 日々の支援	9
1 理念の共有	1	1 その人らしい暮らしの支援	9
2 地域との支えあい	1	(1) 一人ひとりの尊重	9
3 理念を実践するための制度の理解と活用	2	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	10
4 理念を実践するための体制	2	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	11
5 人材の育成と支援	4	(4) 安心と安全を支える支援	12
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	4	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	13
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	14
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	5	(1) 居心地のよい環境づくり	14
III その人らしい暮らしを続けるための ケアマネジメント	6	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	15
1 一人ひとりの把握	6	V サービスの成果に関する項目	16
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	7		
3 多機能性を活かした柔軟な支援	7		
4 本人がより暮らし続けるための地域資源との協働	7		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念を各ユニット、玄関にて掲示し常に誰もが目に入る所におき、信念をもって行動するように心掛けています。	○	今後も『子々孫々のお付き合い』を目指します。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に理念を念頭において業務を行っています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	一ヶ月に一度「かえでだより」を発行し、ご家族・関係機関にお届けしています。また、ホーム内にも誰もが気軽に取って見れるように目立つ所に置いてあります		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日々の入居者様との散歩にて、挨拶を交え時折花や野菜をいただく事があります。 また、年に一度の楓まつりにご招待し交流を深めております。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入会し、溝掃除など積極的に行っています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方々からのご相談を随時、受け付けています。	○	認知症の学習会など、地域の皆様のお役にたてることを計画、実施していきます。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は各スタッフが記入し、自身の評価を意識し次に生かしていくようにしています。		自己評価・外部評価は常に玄関に置き、家族・お客様・スタッフの皆様に見ていただけるようにしています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行事やホームで取り組んでいる事などをお伝えし、地域の方に協力をお願いしたりご意見をいただき、サービスの向上に取り組んでいます。	○	会議でいただいた意見を運営面に活かしていきたいと思います。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の方とも連携を図ったり、相談にのっていただいたりサービスの向上を目指しています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	資料を回覧しスタッフが学習をして、場合によってはご家族に説明も行っています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に対するマニュアルを作成し、勉強会も行っています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

4 理念を实践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明をし、話し合いを行っています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	玄関に苦情ボックスを設置しています。 又、ご家族が気軽に何でもスタッフに話せる環境を作っています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一度、各担当者により自筆のお手紙でご家族に暮らしぶりを報告しています。	○	ご家族が来所された際に、暮らしぶりやちょっとした変化も伝えるようにしています。今後も常に連絡を取っていきます。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	2カ月に一度の運営推進会議に、ご家族に出席していただき意見を聞いています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回のミーティングの場で、意見を聞いています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者とリーダーで勤務調査など考え、スタッフとも話し合い考えていくようにしています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動の際には、入居者様にもご挨拶し、混乱がないよう配慮しています。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内での勉強会を開いたり、研修の案内は掲示板に掲示して啓発に努めています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	『タウンソーシャルワーク』やケアマネジャー連絡協議会等に参加し、交流・研鑽の機会を持っています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	個人面談を行い、意見を聞くようにしています。 職員の休憩室にマッサージチェアを置いて自由に使えるようにしています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	一年ごとに、各自の今年の目標を提示し、結果を発表する機会をもつようにしています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	センター方式に基づき、ホーム独自のアセスメント表を作っています。本人様の気持ちを充分くみ取るようにしています。	○	言葉だけでなく表情・行動から思いを知る事が出来るよう努めていきます。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご本人様とは別にお話を聞く機会をつくり、不安な事や求めていること等を受け止めるようにしています。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネージャーを中心に包括支援センターや居住ケアマネージャーさんの意見も伺い対応しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人様やご家族より昔されていた仕事・趣味などの情報をいただき、出来るだけ今まで通りの生活をして頂けるように工夫しています。		今まで使われていた家具や持ち物を持って来て頂いております。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人様が出来る事はご自身でされたり、会話の中で昔の出来事を教えて下さったりしています。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ホームの考えを押しつけず、ご家族様のお気持ちや考えを充分聞きとり、よりよい方法を検討しています。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人様の事だけでなく、ご家族の方の悩みや不安を聞くようにしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	「行きたい」「戻ってみたい」の要望があった時は可能な限り、その思いに応えるようにしています。		本人様のご友人が来所された際にはご家族に報告し関係が途切れないようにしています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	集団レクレーションやお出掛けなどを実施し、利用者さん同士が関わり合える場所を用意しています。		歌をうたったり、しりとりなどをして皆さんで楽しめるようにしています。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	月に一回の「楓だより」を送り、お祭りなどの行事案内を出して関わりをもっていくようにしています。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の暮らしの中で利用者の希望や意向に添ったケアの実施を心がけています。	○	個々にあった暮らしをしていただけるようこれからも努めていきます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様・ご家族様などから、今迄のご様子を聞きとっています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	表情や体調などを介護記録に残し、職員からの情報交換などで把握に努めています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスを開き、本人様になったつもりで一言書く「すっぽりシート」を利用し、よりよく暮らして頂けるように考えています。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアマネージャーや職員、家族の意見などをふまえ、必要に応じてカンファレンスなど開き話し合っています。	○	認知症をはじめ、状態の変化に応じてこまめにプラン変更を行っていきます。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録に基づき一日の申し送りをし、気付いた事や体調の変化を記録し、情報を共有しています。 『リンゴノート』にてスタッフ同士の意見交流も常に行っています。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ホーム内の暮らしは、お一人ずつの要望に沿うものになっています。その他、外出・帰宅も出来る限りご要望に応じています。	○	もっときめ細やかに、ご要望に対応していきます。
----	--	---	---	-------------------------

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	レクリエーションや行事の時、ボランティアの方に踊りを披露していただき、踊りの好きな入居者の方々には一緒に参加して頂いたりしています。また、関係各機関とも連携を取っています。		
----	---	--	--	--

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人様のお気持ちを一番に考え、どうしたら一番いいのか医師や他の連携機関と連絡をとりながら支援しています。		按摩助成券がある事を市から教えて頂いたので、活用しています。今後も同様の助成があれば活用していきたいと考えています。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターさんに相談し、ご指導いただいています。	○	困難事例や、在宅での生活を支える手立てなど、より一層協働をすすめます。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	各入居者様が信頼されている医師に診て頂き、安心・適切な医療を受けて頂いています。 かかりつけの医師に診て頂いていると安心感があるためか、入居者様から笑顔が出ます。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医と連携を取り、分からない時は相談しています。	○	今までの関係を続けていくように努め、スタッフが認知症への理解を深め、適切なケアができるようにしていきます。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤の看護職員がおり、日常の健康管理を行っています。 また、カンファレンス等においては、医療面からの検討を看護職を中心に行っています。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時に今までの経過・普段の様子を伝えています。 入院中も様子を伺ったり、連絡をこまめにとっています。		早期退院できるように主治医との連絡を密にしています。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	ご本人・ご家族・主治医の意向にどうすれば添えることが出来るか常に話し合い、検討し、意向に添ったケアの提供に努めています。	○	状態の変化に応じ、繰り返しの話し合いを持っています。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホームとして出来る事、出来ない事をミーティング等で話し合い結果をご家族・主治医に伝え、連携を取って『より良い暮らし・その人らしい暮らし』を支援しています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	移り住む先への情報提供を十分に行います。		移り住むことによる、ご本人様の不安を受け止め安心して頂けるように説明を行います。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	声かけ・対応は「人生の先輩」を頭において、尊敬をもって行っています。記録は責任をもって取り扱っています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ご本人の思いや、希望等を気軽に言ってもらえるように心がけています。	○	ご本人がどうされたいのか、言葉とサインを見逃さないように心がけていきたいです。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースで生活出来るように、どんな風に過ごされたいのかゆっくり話を聞きながら行動するようにしています。	○	どうしてもスタッフのペースになりがちになる傾向があるので、常にスタッフ同士話し合い、ご本人のペースで過ごして頂きます。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	美容師さんに直接ご本人が相談していただき、「おしゃれ」を楽しんで頂けるように努めています。外出時にどの洋服を着られるかや、帽子はどうするのかなど、女性・男性としての当たり前の気持ちになれるように心がけています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その日のメニューに嫌いな物がある方は工夫したり、旬の物をお出しし、季節を感じて頂いています。また、お食事の準備、片付け等をスタッフと一緒にして頂いています。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	毎日、お茶の時間に何が飲みたいかお聞きしています。本人様が欲しい時に欲しい物をご用意出来るようにしています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日中と夜間で布パンツ・パット(大・小)・トレーニングパンツを一人一人使い分けして対応しています。また、お一人一人の対応をスタッフ同士で共有しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴が嫌いな方もいらっしゃるので、ある程度入浴日を決めさせて頂き、入浴して頂けるように声かけをしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人のペースに合わせ、眠りたい時に眠って頂き、好きな所で休んで頂く事もあります。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常生活で出来る事はして頂きます。 また、お客様の得意な事を見つけ出し活力にして頂いています。		入居者様との会話の中でその方の興味ある事を引き出してサポートしています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	スタッフと一緒に買物に出掛ける場を設け社会との関わりを持って頂くよう支援しています。	○	もう少し、ご本人様にお金を所持して使って頂けるようにしたいです。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	声かけを行い、お散歩やドライブにお連れしています。	○	毎日でも気分転換に出かけて頂けるように努めます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	入居者様お一人一人が行きたい所をお聞きして、そこにお連れしています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状を書いていただいたりする機会を持っています。 ご要望に応じて、ご家族やご友人に電話をかけるお手伝いをしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	24時間いつでも来所出来ることを、入居時に説明しています。		いつでも来所して頂けるように、心のこもったおもてなしをこれからも心がけていきます。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	常に身体拘束にならないようにスタッフ全員がお互いに注意しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	天気の良い日は玄関のドアや窓を開けて過ごし、少しでも入居者様に外の空気を感じて頂けるようにしています。		玄関の出入りがあると、センサーで音が鳴るのでスタッフが必ず行くようにしています。素早い対応を心掛けます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	お客様お一人お一人がどの様に過ごしていらっしゃるか、リビングなどにお姿が見えない状況でも、何処で何をされておられるか把握し、それをスタッフ同士で共有するようにしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	状態や状況に応じてその都度話し合い対応しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的な研修を行っています。 『ヒヤリはっと』に記録して、事故の防止に役立てています。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期に行っている。	定期的に講習会を開き、応急手当・初期対応の訓練を行っています。 また、緊急時マニュアルを繰り返し見て、緊急時対応に備えています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	半年に一度の避難訓練を行っています。	○	避難訓練をする際に地域の方にも参加して頂くなどして、日頃から連携・協力を深めていきたいです。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクに対する話しをその都度ご家族の方に説明し、よりよい方法を考えています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	いつもと違った言動・表情などがあった場合、速やかにリーダーや他のスタッフに報告・相談をしています。記録に細かく記入し情報を共有しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の飲み忘れがないよう毎食事チェックボードに記入し、スタッフ間で確認し合うようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎日の排便を記録に残し、それを把握をして食事や飲み物で工夫しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ご本人様が磨かれた後、スタッフが確認して足りない所があれば磨くようにしています。訪問歯科など利用し、口腔内を清潔にしています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量共に記録し足りなければその都度、スタッフがお勧めしお好きな物などを召し上がって頂いています。	○	お一人お一人の好みに合わせた食事内容にし、出来るだけバランスよく摂れるようにこれからも努力していきます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウィルス等)	手洗い・うがい・消毒・手袋などできちんと対応するようにしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食品の賞味期限などこまめに確認し、食材は必ず冷蔵庫へ保存しています。 調理器具は毎日消毒しています。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関・スロープにお花を飾ったり植えたりして、安心感や親しみを持ってもらえる様に工夫しています。	○	季節に応じて花を植え変えたり、水やり、掃除をこまめにしていきます。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関・リビングには季節に応じた花を飾るようにしています。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや和室も用意しており、好きな場所で過ごされています。		テレビが見えにくい場所に座っておられる方には、声かけをし見える場所に移動して頂きます。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、ご本人様の使いなれた家具やお好きな物をお持ち頂けるようお願いしています。	○	ご本人の希望を聞き、過ごしやすい環境にしています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	リビング・居室に温度湿度計を置き、状況に応じて加湿器・換気扇を利用しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差をなくし、手すりをつけて安全かつ安心して生活して頂けるよう工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室・トイレ・お風呂場などには表札をかけて、分かりやすいようにしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	洗濯物を干す時は入居者様にも一緒にして頂いています。また、一階ウッドデッキにて日向ぼっこを楽しんだりしていただいています。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、活き活きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目